

グローバル人材育成プログラム 活動報告書

伊 藤 壮 汰

Sota ITO

応用化学課程 4年

1. プログラムの目的

私の企業実習における目的は2つあった。1つは自身の英語力の向上だ。英語力の向上といっても、2週間の実習期間でネイティブと同様に英語を使えるようになることは難しいと考え、相手が英語で話している内容を理解し、何らかのリアクションを返すことを目標にした。2つ目の目的は、日本人とアメリカで働く人の価値観の違いを知ることである。日本で調べる限りでは、アメリカの中でも特にシリコンバレーにある企業は日本と比較すると、勤務時間や残業、転職に対する考え方が大きく異なっているように感じた。実際はどう違うのか、なぜ違うのかという問いに、自分なりに答えを持つことで異文化に対する理解が進むと考えた。

2. 企業実習

2.1 実習先企業概要

今回、私が実習をさせていただいた企業は、カリフォルニア州サンノゼに位置する DISCO HI-TEC AMERICA である。日本の東京に本社があり、アジア・アメリカ・ヨーロッパと世界中に多くの拠点を持っている。

その中の1つである DISCO HI-TEC AMERICA は DHA と呼ばれている。DISCO は「装置」と「加工ツール」を開発・製造・販売しているメーカーであり、「高度な Kiru・Kezuru・Migaku 技術」に事業領域を定めている。

2.2 実習内容

実習内容は主に2つあった。

1つは、DISCO の独特な社内文化と制度を学ぶ

こと。もう1つは、DISCO が持つ高度な Kiru・Kezuru・Migaku の技術を知り、理解することである。

実習先では、黙々と作業をするという方法ではなく、多くの方と話す中で学んでいくという方法で学んだ。

技術の理解は Kiru Kezuru Migaku の加工をする KKM と呼ばれる部門の社員に半導体加工プロセスについて英語でレクチャーしていただいたり、クリーンルームに案内したりして、作業を実際に教えていただいた。下の図は、半導体加工プロセスについて英語でレクチャーしていただいている様子である。



図1 レクチャーを受ける様子

最終日には実習期間中に学んだことについて社員の方々の前でプレゼンテーションを行った。資料作りも発表も全て英語で行ったため、日本語でのプレゼンテーションと同じようにはできず苦戦したが、練習を繰り返すうちに自分でも驚くほど上達し、社員の方に理解していただけるプレゼンテーションができた。下の図は、私がプレゼンテーションを行っている様子である。



図2 プレゼンテーションを行っている様子

3. ホームステイ

私は、サンノゼの Mohammed Akhoirshida さんの家に二週間滞在した。Mohammed はアラブ人だったため、電話をするときはアラビア語で話していた。ホームステイ先を訪ねてくる人もアフガニスタン出身の方やロシア出身の方など様々な人種、言語の方だったため、アメリカが人種のサラダボウルと言われる所以を実感できた。週末には、アラブ音楽を聴きながらサンフランシスコまでドライブをして、観光地を案内してもらったり、Mohammed の行きつけのお店でアラビックコーヒーをいただいたりした。

ホームステイ生活では困ったこともあった。しかし、困っているということを伝えればすべて対応してくれた。私はホームステイ生活で、何に困っているのか、どうして欲しいのかを言葉にして伝えることの重要性が理解できた。

4. まとめ

プログラムを通じて、アメリカの文化を感じると同時に、日本の文化に対する理解も深まったように感じた。日本では当たり前だと思っていたことがいかに素晴らしいことなのかが、アメリカと比較することで見えてくるのである。例えば、電車やバスが時間通りに来ることやウォシュレット付きの清潔なトイレがあること、治安の良さなどである。逆に、日本と比べてアメリカの良い部分にもたくさん気づくことができた。特に、多様性を良しとする文化や自分の意見を持つことを重視する部分は仕事にも大きな影響を与えていると感じた。

実習先でもホームステイ先でも、私は無意識に受け身になってしまっていた。日本ではそれでも困ることはなかったからである。しかし、アメリカで同じような姿勢でいると、空気のようになってしまった。最初は、「なんて冷たい人たちなんだ」と悲しくなったが、自分の意見や気持ちを伝えるととてもフレンドリーに接してくれた。このことから、彼らは決して冷たいのではなく、困っていることに気がついていないのではないかと感じた。つまり、日本人の察する能力が異常に高いのではないかと考えたのである。この違いを理解してから、握手やフィストバンプと呼ばれる拳を軽く合わせるコミュニケーションなど、当初とは逆にとても温かく親しみ深い文化だと感じるようになった。

このように、たった20日程の短い期間で私は価値観が一変する経験を何度もすることができた。これは、プログラムに参加した目的「日本人とアメリカで働く人の価値観の違いを知ること」を十分に達成できたと言える結果である。